



玉子抄

一





源氏物語

源氏物語玉乃小櫛の序

ふきのこふきのたけ物語の序
おほく中にすれよのひとめ
あつゝいよとくはるく。先づ
たのしむ。此源氏の物語にあん
あつゝ。あつゝればそれよのこ

こころ書も。くれ作れ代にいつぞ
あまのまこと。よらうれ演の具
え。おろくまつれちび。をふうよ沖
のみ。うは。つぎ。え。う。れ。あ。あ。み
し。あ。ま。の。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。
く。ま。の。ま。ま。あ。ま。の。ま。ま。

あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。
あまのまま。あまのまま。あまのまま。

けりも。意のすけまきと。何れをてよと。かて。人の情コロのふくか。依
て。意のよまき。いなる。是づし。まづ。こころを。けり。程つぎ。く。
く。く。く。い。い。い。い。い。

此原氏の物語の作りぬ

は。物語。の。業式。が。けり。と。い。つ。あ。い。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
て。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。え。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

ぶとよむべしは付提もどろどろうとよむべし。是が細き程どり例
あり。ゆづらたまがえのどろうなどいふむべし。男あゝる。江帥若大
地言在中ぬるものどろひ。いふとあゝる。また紫のこい。つよ
し。河海抄の一説。云々。藤式部といふを。幽玄ゆづらとて。藤の花
の色はゆるふ。紫の字あわし。あゝる。藤といひ。今あゝる。此説ハ。紫とい
ふよりりて。あゝりて。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。

おがしをせと。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
二つのうち。徳抄の前の説より。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
の。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
ら。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
ま。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
の。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
後の人。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。
のもの。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。あゝる。

ひらきつたの一巻のゆきふむき...のまのみなぐらうらまをそごるといふ。
あつまひてこことより業をゆるるといひあつたり。業成り日記。
左馬^つ巻^公。あつりこけりおまじひうまにやまかうぬく。うか
ひもあ保氏あうほべき人そし終いぬおかのうへ^業まいていごお
終いしつふおりといふ。此日記の文うつけてもゆるさ終まうりて
おぢ^しんこはゆるり終まよなき。業といふ名う終業上よらうづ
らぬこ終をそ^てま入てのこま入るぞ奥あふてうら^かこさ
まあ^ぬこ^はは^ては^るづ^くふ^まへ^こら^はる^も奥^はは^なせ^ぬか^か業
上のる^はは^てま^にて^くき^をお^りて^の名^をう^まじ^りら^ぬま^うか^{して}も^業
このころたふらるるづうし^まう^らせ。

はくきまゆきう

此物伝い^くなるよあて^は終りといふ。こころあちり^かう。うら
上東門院^おま^うぬ^め。太^ろ^ろ^ろ太^ろ。お^り。お^つう^うなる^おは^りや^のぞ^ませ
ま^うる^お。お^うて^をぬ^りといふ。説^れ。う^をう^らぬ。う^らぬ^七傳^おぬ。
こ^らう^くま^にま^うら^るく^こう。又西^の宮^殿。う^らま^うき^時。あ^もを^ぬり
といふ。時代も^うづ^らり^ある。石^の山^おこ^らりて^から^とこ^はひ。太^ら般^若師^の
料^紙う^らか^らと^ぬといふ。み^まあ^い説^し行^成る^信書^とい^ふも。此^人名^も
よ^かき^{たる}お^しく^らて^いつ^おべ^く。又^うら^石の^山お^らぬ^らま^うら^いも。
八月十五^の月^湖う^らう^つりて^んの^まま^わら^りま^うら^るま^う。お^物伝^の風^情
情^のん^おう^かひ^らま^うら^ま。頃^度お^るの^まは^りき^ぬお^らる^お。油^磨

巻ふこよひに十五卷あるをきりとおがし出てく物といふ物とい
いとこよひに十五卷とつて紙も十五卷ある
永徳とせば神喜北をおりやう日なりとつて物とす。西月の子
の日よりいつりとせんといふとまきといし。又今石山ある源氏間
といふ有て式部が像まゝその机硯あどつてわらひみるかの説ふよりて
事ねむものけしきし。又源氏君を西よち長お好まへへるは
こ物とせん。葉上ま式部につくよまへへくまかり物といふいとをこ
いふするあまきといふといふ。

作らる時世

此物後寛弘のちどきふいできて。康和乃末に流布とて河海ふきて。

法抄とてふより後より。今式部日記をまて考ふ。寛弘の始をい
いでくとつていふとまべへといふはあや七條ふこよふ考へく。
出まらるいふも長保の末寛弘乃始まべへといふ。物ふ或人葉む
物流備への別とれをふうたむる源氏もかくやまきんとんま
とつてハ。長徳二年四月たり物とせんといふたれおまやく此物よりハ。
昔の流布とつとる。寛弘乃ちどき作らるといふ。まがことい
んらハ。おとくつ。葉花物流作らる。長徳二年たりつて。ま
いとまら。葉も。寛弘より後おまつとつ。物とてつとつ。むさ
て康和乃末に流布といつて。日記のおまむき式部がみやづ
へくまほどもやくま乃内より。ちるまらるまらにんらまや。又

けお世ふもてうそぶこい、後成つ定成つのうけよりこい、つるはつこ
 がしこも後成つた。ある事、あ合の判の件、又定成つ、の賞美の件など
 乃わらば、世のゆるり好くおしをかりあいつるこころべし。

此物傳の名はす

大もつゆくは物傳の名の係、おろく、まに、まに、まに、まに、まに、まに、
 名をまてはきこり、此物傳のりも、そのぞうおし、光源氏、君は、すまじむ
 祇して、くま、あふ、源氏の物、くわい、つら、し、此君の名、光といふもの、
 相壺、を、お、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、
 ぶく、君、く、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 えて、は、ま、あ、り、く、ま、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

昔、人、乃、中、に、む、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
 あ、べ、し、か、く、て、ま、く、お、け、君、乃、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 い、つ、り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 お、又、何、び、い、り、あ、て、き、く、お、ま、人、ま、ば、幕、を、に、一、ま、く、の、し、お、り、
 ま、
 う、ま、も、む、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
 く、か、ま、り、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 時、源、氏、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 河、を、帶、本、を、は、た、く、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 く、ゆ、り、は、て、物、傳、乃、名、光、源、氏、の、物、傳、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 源、氏、物、傳、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

〇まをまう一

〇八

へきふあしびとつふ人あはれどもとつうとまやく傳いぬし日
記ふもく係氏のおごりといふまや。

准授

此お清法抄より准據といふとつりふとを光原氏といふ人まお
りさごと西宮をたた^{高明}公おあそへておとりといふもごいしれど
おごりおあそくおするもごもあおとくたそへておてまも
あにまつらび大いほりする中おいさうおするまより
してそのまをさうへまごまてくまるとつり又うおご一人を一人
あてつらぬおもつらぬ係氏君一人のつらぬのへおいさへの人乃
うへまこへもごもまやまもまらうへおもまてしつらつらりまこ

しつらてまてまされるこつらつらごしおあうし准據といふまは
つら傳いぬしお心のこつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
考へわづべきふもつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
さつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
ておいたし五條りつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
らおおつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
のつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
おきつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
び乃とまおおごつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

くさつらつら

よふ此抄卷を源氏六十帖といひて、その天名帖六十を抄取つて、
おがてし此抄卷を五十帖とす。六十帖より、おきをかの天名の書
おきて合きせしめて、いひまきふて、いわく、いふ、いふ、いふ、いふ、
よてと、天名の書、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
ふよ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
か、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
の、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
ろ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
かり、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

い、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
誤、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
い、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
む、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
い、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
合、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
て、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
治、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
い、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、
を、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、いふ、

さしおきしむとあかし。此二つの抄をながく見えてはうねぬもの
但し傳もいとおかく傳の注をどふは侍おむがここのとおなくして
用ひがうう。後唾花抄細流あり。河海花も此傳をうづらうが
是こそと考へるうう。又明星抄孟澤抄岷江入楚万
水一巻。湖月抄あどならさう。頭書や何やとまると。皆さ
まぐは抄ごを引出て。さうもあてはるるをぬく。やがてうづらうの
まのまこ。ま中今世中ふりるゆ。用ある。湖月抄にふ此抄と
はまぐは抄もうこの抄ごをうぬ縁くよにふ頭と傍とふり
出師説今按をまこ。まぐは。又ふふよりよにさるあが書ぬく
う。は。又賢仲あし。の源註拾きと。つ物八をうぬ。あがく

はきふちうう。う。法の抄もさう。ゆ。傳もるう。ごをう。う
こ。は。解る物。此。人。も。よ。う。う。は。り。う。う。人。を。う。う。う。
う。う。ま。う。う。う。この人乃わ。う。さ。書。ご。う。ハ。近。き。母。う。う。と
家説をば。う。う。う。何。も。も。古。き。書。傳。う。う。新。ふ。見。ぬ。く。先
う。う。お。あ。き。し。又。ま。た。う。う。も。い。つ。業。家。七。傳。う。う。物。の一。を。こ。れ。ハ
注釋も。う。う。う。此。物。傳。の。大。む。ひ。を。傳。う。業。式。知。が。才。徳。な
い。日記を引。出。て。う。う。考。へ。考。う。り。れ。安。説。ご。を。和。ま。ま。入。な。ど。
さ。る。か。う。り。て。一。ふ。一。う。う。お。し。う。ね。く。む。え。べ。一。但。一。その。お。お。む。縁。う。
ゆ。う。う。人。乃。書。ご。と。傳。する。例。を。の。思。ひ。て。物。語。う。い。物。乃。説。を
おも。う。物。の。う。を。れ。を。む。ひ。と。か。き。る。う。う。を。ば。い。ま。う。う。う。る。もの。ふ

○あけきり 一
〇十二

して諷諭と見えしは、お儒者ごうおどる。又吾師縣居翁も、
此物流の新釋といふ物あるは、やくよひまけとていふも、
えんむしごとの總考といふ一巻をとり、その類大く、
外傳といふ物も、
がらり乃も老り、
と、
おやうとての一日なりてあそわき、
ぬし、
と、
おやうとての一日なりてあそわき、
ぬし、

の字の中、
をおく、
を、

引あといふもの

物流の初の中、
をこ、
を、
おも、
あ、
あ、
あ、

あるけりハ、誓仲も^リきつて^一いづ^レも^一ふ^レら^レむ^レが^レも^レか^レん^レど
さ^レその^レま^レお^レゆ^レら^レね^レく^レさ^レま^レれ^レる^レもの^レぞ^レお^レぢ^レゆ^レつ^レた^レま^レ後の抄ど
と^レお^レも^レその^レ考^レへ^レち^レい^レづ^レ河^レ海^レ乃^レす^レお^レら^レう^レさ^レさ^レり^レも^レ又^レみ^レづ^レり^レあ^レら^レど
り^レま^レい^レて^レその^レ心^レを^レし^レて^レ見^レべ^レし^レ又^レ河^レ海^レを^レか^レの^レ抄^レり^レも^レ引^レあ^レ未
動^レと^レち^レる^レに^レて^レつ^レり^レあ^レら^レぬ^レ乃^レ引^レあ^レる^レも^レま^レり^レく^レつ^レら^レハ^レ猶
よ^レく^レか^レむ^レう^レへ^レき^レ引^レお^レす^レち^レり^レき^レわ^レか^レなり。

湖月抄のしり

此物係今の世こそかこあるとは本がこつの中におもらうとよれたあ
ふおなくハ湖月抄をさるるもこもあつまてあははるべきさうぢもわ
と^レま^レが^レ此抄の本あかともよはした中おをりく^レつ^レき^レも^レ又

行のおち^レる^レそ^レつ^レあ^レど^レつ^レハ^レ今^レ他^レ本^レと^レよ^レみ^レら^レべ^レく^レみ^レあ^レえ^レり^レあ^レて^レ
奥^レお^レつ^レる^レそ^レつ^レが^レど^レ一^レ又^レ此抄^レま^レて^レ句^レ讀^レつ^レみ^レづ^レり^レあ^レて^レは^レお^レや
く^レ中^レを^レ句^レ読^レよ^レり^レて^レつ^レつ^レ倍^レの^レま^レい^レも^レ得^レる^レあ^レら^レま^レい^レその^レ心^レを
よ^レむ^レべ^レし^レは^レ溜^レも^レさ^レう^レま^レこ^レあり^レし^レ候^レ字^レづ^レく^レひ^レ乃^レあ^レら^レぐ^レく^レも^レか^レへ
あ^レも^レ後の^レま^レ乃^レお^レく^レま^レて^レお^レま^レは^レし^レつ^レお^レな^レき^レお^レわ^レら^レべ^レき^レその^レ
は^レら^レ引^レあ^レの^レ例^レお^レし^レの^レま^レを^レか^レま^レこ^レあ^レら^レる^レあ^レら^レぬ^レさ^レは^レお^レや^レ
引^レあ^レと^レハ^レち^レま^レち^レあ^レら^レり^レて^レつ^レつ^レ何^レう^レて^レく^レあ^レら^レぬ^レさ^レは^レお^レや^レ
こ^レえ^レぬ^レ取^レえ^レゆ^レま^レ此抄^レ河^レ海^レ乃^レあ^レら^レぬ^レさ^レは^レお^レや^レ
例^レあ^レら^レぬ^レさ^レは^レお^レや^レ
お^レん^レた^レて^レう^レは^レま^レを^レか^レけ^レら^レる^レそ^レつ^レの^レま^レき^レこ^レ又^レ後^レの中^レお^レ河^レ海^レ抄^レは

ども乃おむき又そはまよひる人の心だんまげは源氏のおごり
 のまこもほぐゆるをまへするべし今もほろろかきり
 出てそのまはまをゆりくひてまをむきまをふくもさうか
 きゆのまのどよりおごりはまをゆりくひてまをふくもさ
 きりりかかまをひきまをひきまをひきまをひきまをひ
 かかまをひきまをひきまをひきまをひきまをひきまをひ
 相済きよめてま人の心をむくまゆゆまをむくまゆゆ
 るゆゆゆゆまをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 やうおひてふのちまをまをまをまをまをまをまをまを

結念をいなくかの結の日記をうたうて今もむ人ぶまをまを

ぬいさうむ人を海まむまぐくつらまをまをまをまをまを

結の日記を源氏其の後の日記の日記をうたうて今もむ
 とハまをむりけりいさく今もまをまをまをまをまをまを
 ありまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 こまのまをいさくむり相済きをまゆりもやうく人のゆりまを
 よの中はわらやうゆえんとまをまを

まま相済はまわらう人のまをまをまをまをまをまをまを
 およまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 のあやうまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを
 ちまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

常をぬえ。此五例の如く。より。も。り。て。な。り。か。の。お。く。つ。ま。づ。
 多。色。バ。注。方。く。後。相。が。り。ね。ど。の。ま。ま。ま。の。ま。し。時。〜。く。し。め。お。あ。い。し。
 こ。ま。は。り。相。後。乃。後。う。て。つ。ま。ま。い。〜。か。ま。い。る。あ。う。ね。し。は。ら。ん。び。
 ち。ひ。ま。た。女。君。の。何。ん。も。な。う。て。も。し。〜。結。へ。る。さ。ら。を。む。り。〜。お。わ。り。
 ま。ぬ。お。が。い。で。女。君。と。え。ぬ。お。

下。野。女。君。ハ。世。業。上。り。て。む。り。〜。お。ま。ま。ま。〜。ハ。み。づ。づ。〜。お。い。な。け。ね。り。
 一。ほ。の。の。も。と。お。が。〜。あ。ら。ん。

喜。本。極。を。に。云。若。物。後。を。ど。を。る。お。も。よ。め。つ。つ。お。れ。ん。だ。〜。海。き。お。や。
 ぶ。時。ふ。う。つ。ひ。ん。〜。き。〜。ら。〜。お。ら。ふ。の。〜。ま。ま。と。れ。お。〜。
 こ。も。物。後。を。と。て。ま。中。は。あ。〜。や。〜。後。ま。ま。と。

下。は。若。葉。を。い。ち。〜。射。り。ハ。隊。の。お。〜。ま。ま。ぬ。ね。ハ。よ。ひ。お。〜。結。
 して。人。〜。お。相。が。り。ね。ど。よ。め。き。〜。あ。あ。お。が。〜。乃。〜。も。い。ひ。い。あ。
 つ。老。〜。む。〜。も。の。後。〜。も。〜。あ。〜。男。色。の。〜。あ。〜。ん。あ。〜。人。〜。
 か。〜。づ。〜。ひ。〜。女。〜。や。〜。お。ら。る。〜。後。〜。ひ。あ。つ。め。〜。お。も。は。ひ。〜。い。〜。
 一。〜。者。〜。〜。〜。老。後。〜。あ。〜。〜。う。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

か。く。〜。〜。下。野。業。上。の。相。後。を。よ。む。き。ま。ね。ひ。て。の。ん。〜。や。う。お。ら。
 一。〜。〜。〜。や。う。お。ら。と。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。
 み。〜。〜。の。は。野。の。〜。〜。

女。君。を。い。ち。〜。よ。の。人。ま。の。〜。ま。け。〜。お。や。あ。〜。〜。〜。〜。
 そ。の。む。り。〜。相。後。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

かゝりつゝと。さうに女房ねどのよむきとまきくおうねくびやうね
る波つひと。さうもつうざりきむと。おらおしをかう海をまき
ふわりとねるおらうらるぬべきおねりまの世と。ふらうりねべー。総
角巻云々。後の言ねと先しに。ついでに人も何んば昔お終まで
ふあうさうおきをこきまきて。ほりおと。ものゝさひおこさひ。たり
ぬべりめと。又云。ぶねおるこぞ。人乃んさの。おとよりなりきるを。
おもひついであ。

此ねあつて。さうまきおれ。お終まで。古物終まで。いひ。

宿本也云。かゝる言つて。ねと。後うらぶ人の。おとむと。むう
物終まで。と。おと。人乃んさの。おと。より。なり。きる。を。

おらうねるま。い。さ。あ。り。き。り。と。家。身。お。な。り。て。ぞ。何。る。も。お。お。ひ
あ。う。さ。終。ひ。り。

こゝに。さ。終。の中。君。の。古。物。終。お。あ。る。り。波。今。家。身。お。な。り。て。お。ひ
あ。り。て。ぶ。お。と。お。お。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。女。の。男。お。な。り。て。お。ひ
お。て。お。お。ひ。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。

ま。さ。い。と。く。さ。う。お。か。く。お。き。り。り。り。り。と。お。や。う。お。ら。と。い。さ。ら。か。い。わ。れ
を。お。お。ら。う。り。お。お。ひ。お。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。さ。ら。か。い。わ。れ。お。お。ひ。
昔。お。終。乃。何。や。い。お。ら。う。ら。る。お。お。ひ。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。さ。ら。か。い。わ。れ。
こ。こ。ら。と。お。お。ひ。お。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。さ。ら。か。い。わ。れ。お。お。ひ。
ひ。う。け。さ。ら。お。お。ひ。お。さ。ら。か。い。お。さ。と。い。さ。ら。か。い。わ。れ。お。お。ひ。

おきづるおる人乃人あどままておやつちりおやしいわつめ
 家中小の口がままのやうおるいなりきりともあふ

ここのお着るお古お流どとをえあひてのんこ

住吉の姫君乃まかのきしぐゆるさ波おがーおる人あふ

住吉お流をよみて口が身お人おきまゝさ波おひ合を流お

殿まこおかちふかお流おもおちりつて目おお流お流お

殿ハ源氏君かお家ものごとハ古お流の本^ホどとをいふ

おあむつりおきお流るさかりせび人なりおむり流せともあれ

るものお流

ここのより源氏君のおおづるおあおのあおおおいつちりおあま

おきづるおの流おまふら流お流お流るさうらもあ

でおきづるお女おあもの人よおあむりおんおあお流る

のおあまこおかのあまおあまおあまて古お流をい

おあーお流るこまておあまおあまておあまおあま

まおけ源氏お流をよむむ人のんおあまてまおかくいおあ

るる^難お流るまおあまおあまておあまおあま

しおきひおあまておあまおあまのべうり

くらお申おまていとおきおあまおあまおあまおあま

おあまおあまおあまおあまおあまおあまおあま

おあまおあまおあまおあまおあまおあまおあま

見せといつゝこそ源氏物語乃ま於こし此物ぐるりいぢり物のつら
 き成さうしむいことむゆいとかきさうものしけるすなわおく
 お別りくさうくいつべしそもくけ物語を勸善懲惡
 のことたすおの好色のひまし先物どつあまむがことなるおとら
 の泪ももあべし物語を見てはんうごうとこそあつたといふで
 う好色乃いましめおのたうん後おふらさうくいつべし
 又いとあつたきさうかるとるくおぞろくくそりあ
 づら先おぞろきてあづふ又きくしびぞおくれどあまきさう
 きあしづらおのあまきさうべし
 こと又あつた物語くつら一様乃ゆい上のがあまきさうむい

ういハアアアあまれおあつら一様のゆいさうおあぞろくし
 くあづらあおあまきさうあつたあおぞろきさうあ
 しくつらくしあまきさうあつたあまきさうあ
 よあせてきさうあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 おぞろくあまきさうあつたあつたあつたあつたあつたあ
 ものしあまきさうあつたあつたあつたあつたあつたあ
 氏物語あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 さまの上あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
 むん乃んを感じさうあつたあつたあつたあつたあつたあ
 くといつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

いなるおどろくゝあきまふ。こゝに一種こゝして上の一々までこの
物産乃本さおして後の一種も。いづれお奥より出さるゝのこゝ
さるおあけふまきくそれもふくゝゝゝひて此物産の中
おさるおどろくゝあきまむるやうお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
わやゝゝあきまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らふお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

けろまきおまき人の女房おだのいづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
物産乃本さおして後の一種も。いづれお奥より出さるゝのこゝ

あまのよむおうて。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
りハわゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
下。お事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ

およゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まよりぞいひお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれお事ハ。いづれ

世よりの事々をさしあまして巧め借をよくりか者たわらふを
あかきつうふく回きまじりもつじやといふまじり
さしあつたふやといふじ。下のふよむもの難なるに
て此あつたつ次の借をよくりか下にのべり。
なみりしをさしあする人やまじりふまじり結ん
いふまじりさしあする人まじり結ん
あまじりの借をよくりか
ひり人の借をよくりか
くさしあする人まじり結ん
ほりまじり結ん

あつたつ次の借をよくりか下にのべり。
なみりしをさしあする人やまじりふまじり結ん
いふまじりさしあする人まじり結ん
あまじりの借をよくりか
ひり人の借をよくりか
くさしあする人まじり結ん
ほりまじり結ん

下ふ中へきこりてお侍をむらびつゝおほきてよれたまふのこころいひ
好くむらむらひつゝ作る此係氏物件を道くくく
ちしく日本紀をどかせたまふおこ思入るふこころ世の人
らぎきこるもこころいひつゝその難さのうらむむとせふ
まげくういひおこじ。

その人乃ちへてけりたまへしひつゝけりこもねんせよれたも
わきまもよおふ人のあたまねもよもけりこもねんせよれたも
あつて後のせりもいひつゝこころいひつゝまきやむらぶとらんふ
こをうていひおきてまきやむらぶとらんふ。
よおふひもあつていひつゝ此文へつゝまきやむらぶとらんふ

こおふむらぶとらんふこも此係氏物件のせりこもあつていひつゝ
今くうらむらむらひつゝおほきてよれたまふのこころいひ
こおむらぶとらんふのこころいひつゝけりこもねんせよれたも
より上おお侍をいひおこころいひつゝけりこもねんせよれたも
乃此係氏物件のせりこもあつていひつゝまきやむらぶとらんふ
さうしていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
まのこころいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
かこもいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
お侍のこころいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ
ふあつていひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝいひつゝ

きてよれあきまゝくしふふにわたり下ふよきまゝなつきたま
 などけいこ同い此も奥ふ別ふくまゝくしわだゝゝゝあわ
 うがどあまもてあはふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 をかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 がゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

たり相違をきふくまゝぢゆんのやまもゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 ぶふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
 おまろでけへ早蕨巻を中細巻をゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
 よろはくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 へいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 又あを後きもはぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 なるほでいひむきがゆゆるもまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 こよねくむひぢもかろゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 せゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 こねをいひあるかゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

抱びしりおよせて、そのむらぎをきき書候ぞ。おきびさうむらぎをねがう。その
ごめあつげと知べしとし。おつば此抱けりうきき事ごとひみる
紫式部がまの何なりその代りえきき事ごとひねがふ人の名
をかきし。おきき抱きしりおききむらぎをききし。おきき人乃
その事とひねがふ。おききおききおききおききおききおききおきき
感ぢし。おききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき

トよきおききおききおききおききおききおききおききおきき
おきき抱けりあつげおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき

となり。トよきおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき

人おききおききおきき

次の文をもしおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき
おききおききおききおききおききおききおききおききおきき

一 何れいふもいふもあはれなるぞ。

みるかこへおつまをけさせお乃すおろむか。

そのよきかおつけあきうふはきしつるすぞとらおけせ

おたまきもふきつらびつらふらうもぞとら。

人乃みくぞおをにらりやうかおね。

人のこかどの異おしおえ人のま回しおとらお伴おのま回乃

おとらおとらいつりはらりやうの書お伴おとらおとら

おとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら

おとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら

おとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら

のおむむき。能くやうといはれおとらおとらおとらおとら
異國乃書ハ。おとらおとら人の善悪是非をきびくおとらおとら
物の道理をうがらておとらおとらおとらおとらおとらおとら
ひて風雅のまぢの詩原のまぢといへども。皇國乃まぢといよ
たうかおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら
うををほくろひうおとらおとらおとらおとらおとらおとら
國乃物が。おとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら
書おとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら
一くおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとらおとら
乃うらおとらおとら。

曰くやまやれお乃くお色どむう今のおうなるべし
おことお色むくある本の信じもろくお書乃くするの
たうび此何れ皇御入書といへども昔と今と他をやりかえれ
ことなりたるべしといふはかきまるゆあむう今
うりおるべしといふも皇御好書の書といふも上おも
し日本紀をよみぬらひをいかにしそ漢文をて事
さぬもお色といふかきまる今のお色お色書この
日本紀をどるおきにくくおきばお色も近き書のお色
なりトんと今のお今つらる此原氏のお色なりし
おきおことつらにこれまぢらをてわめ

あつら二つおふ文詞おておきあつら異國の書又日本紀の
ひ乃女書おのまやまへんおに漢文をいなりおきこ
とへお色書おのこおお色おおきぢかへかろ女お
お色いなりおきおきおのこおお色お色おて文詞
乃まお色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色
トんと人のうへお色お色お色お色お色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色
お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色お色

形^{アカシ}とつゝ能^{カシ}ふその俗を引るじ。

佛のうりきんをせ。されおき給うははも。方便といふて有て。
うりきん俗をきんとして。いふに。佛のうりきん
きんよりそれぬ。はは。うりきんをきんた。おき給うははも。
いふ。方便といふ。このあきこ。ま。て。いふ。人。を。いふ。より。て。ま。
形ど。う。方便。う。は。な。き。も。も。佛。の。う。り。き。ん。を。い。ふ。て。有。て。
と。お。が。う。そ。う。ど。う。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。
と。い。ふ。と。あ。る。安。ん。て。い。ふ。と。う。り。き。ん。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。
う。り。き。ん。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。
く。い。ふ。と。あ。る。安。ん。て。い。ふ。と。う。り。き。ん。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。

おしひかきまゝいよ。うりきん。も。あ。く。お。よ。れ。て。あ。る。ま。ま。
をかき。う。り。き。ん。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。
の。方。便。と。い。ふ。と。あ。る。ま。ま。い。よ。う。り。き。ん。を。い。ふ。て。有。て。

さ。う。と。お。き。ま。ま。い。よ。う。り。き。ん。を。い。ふ。て。有。て。
仏。説。の。方。便。乃。本。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。
ら。お。説。と。遠。ふ。と。あ。る。ま。ま。い。よ。う。り。き。ん。を。い。ふ。て。有。て。
お。説。を。い。ふ。と。方。便。と。い。ふ。と。ん。を。い。ふ。て。有。て。

方。等。給。乃。申。お。あ。ら。う。れ。ど。
方。便。と。方。等。給。の。給。と。申。お。あ。ら。う。れ。ど。
い。ひ。ま。ま。い。よ。う。り。き。ん。を。い。ふ。て。有。て。

方便と実説との異なるやうな事ども、きつまるそと後ハ一つと云ふ
おのゝこと。

菩提とぼん燃とのへぐをなんび人のよにわきまをかりたこ
とわりつるをきる。

一つむゆとの昂け菩提と煩惱とをさうせいなり。佛の法ハ方便
とまぐちまてうかこしうがやれども、何とてとまいたるこころ
を、実説も同じとて、菩提と煩惱とのへぐは、あるは、さう
説る。一つむゆなりおつとし、さうせいといふより、たのこころを、
合せるとして、げとの物、説書、説きといふしく、た、佛の中、ある
く、じ、かち、きるとい、佛、説とも、人のよに、と、け、き、と、の、う、り、を

とて、説を、書、さ、ら、う、け、佛、説、の、菩、提、と、煩、惱、と、の、へ、ぐ、を、説、
く、る、が、お、つ、し、或、人、その、き、く、物、に、お、づ、り、お、り、し、ま、い、す、る、取
を、人、乃、よ、に、わ、き、ま、を、お、先、き、お、せ、ば、こ、も、お、ら、ら、ち、勸、善、懲、惡、の
て、漢、文、の、書、ど、と、い、は、ど、き、佛、説、を、儒、佛、の、書、と、説、い、く、異
ありといふら、い、く、善、お、上、お、い、つ、び、く、佛、説、の、い、つ、よ、き、り、ま
を、儒、佛、の、お、わ、い、お、善、惡、是、非、と、い、は、ど、か、り、さ、る、こ、お、わ、き、ま、を、り、
その、お、も、む、ま、い、つ、し、を、お、せ、し、下、ら、も、表、れ、ご、し、
よ、い、い、へ、む、ま、い、つ、し、何、れ、も、む、あ、か、り、お、わ、り、ぬ、や、と、佛、説、を、い、や
と、い、つ、た、お、わ、い、の、ま、ま、い、あ、つ、
よ、い、い、へ、む、ま、い、つ、し、佛、説、を、ば、さ、う、お、き、
無、差、乃、物、の、ご、と、思、入、ご、よ

くるとなりて、ちとより、波つらきば、さき、つらげ、このさし、さき、まの
る、と、い、そう、ね、き、ま、ま、び、る、あ、え、つ、ら、で、せ、で、い、う、ね、も、ぬ、る、ま、い、か、
お、後、も、女、き、ね、も、し、つ、ら、び、お、ま、て、そ、う、ね、き、ま、ま、び、あ、る、波、今、う、か、く
源、氏、君、の、よ、ぬ、で、い、か、あ、い、ぬ、お、の、や、う、に、い、ひ、あ、る、お、ま、と、い、下、心、物
後、を、と、い、ふ、う、り、紫、衣、式、類、が、ん、こ、う、い、お、て、上、件、の、ぶ、ら、く、此、源、氏、の、お
が、る、波、よ、う、つ、り、ま、い、ま、ち、せ、せ、い、も、ま、ま、と、い、そ、う、ね、き、つ、ら、び、こ、
な、り、と、卑、下、し、こ、う、さ、あ、て、ま、ま、を、さ、ら、せ、ま、る、し、文、の、ま、い、波、よ、う、あ
ぢ、り、ひ、こ、ち、る、べ、い、ま、し、上、お、も、は、ま、ぎ、く、い、つ、ら、げ、く、蜜、卷、の、此、後、を、
下、心、う、り、げ、お、後、を、ほ、ら、ま、る、ん、ご、入、ま、の、べ、い、ま、し、一、類、の、大、む
祿、も、波、一、類、乃、ま、ら、せ、お、も、か、ぞ、終、り、も、か、で、い、つ、ら、び、い、何、と、ま、き

さ、ら、ぬ、お、そ、ま、と、ま、と、つ、ら、び、あ、げ、う、お、ま、つ、ら、つ、ら、ま、い、つ、せ、で、
く、ま、し、昔、より、此、後、の、注、釋、ぞ、と、い、う、一、つ、ら、り、い、ま、い、を、の、ま、ま、き、
て、い、ら、り、ぬ、い、下、の、心、あ、ら、う、ら、ま、い、又、ま、ま、て、信、ま、る、こ、ぞ、と、ま、う、る、申、お、
伝、説、う、ら、ま、ま、い、つ、ら、さ、ら、の、注、釋、ぞ、と、い、う、か、の、經、文、の、う、い、
の、ま、い、む、ら、り、波、よ、う、つ、ら、び、い、つ、ら、げ、く、い、つ、ら、び、あ、る、お、ま、い、の、ま、い、に
あ、ら、ま、る、ハ、一、つ、ら、り、な、り、ま、ま、い、く、此、後、乃、ら、う、波、あ、ら、う、ら、お、れ、む、
源、氏、お、後、一、類、の、む、お、う、ら、な、ら、び、こ、通、お、よ、り、て、今、つ、ら、う、ら、ま、の
注、釋、ぞ、と、い、信、ま、る、こ、ぞ、と、い、ま、い、は、ま、い、佛、の、う、ら、う、き、ん、い、い、
を、ま、ま、經、文、を、い、て、お、ま、い、く、佛、の、う、ら、お、つ、ま、て、信、ま、る、こ、ぞ、と、い、皆
あ、ら、う、ら、ま、い、く、波、よ、う、つ、ら、び、い、つ、ら、び、あ、る、お、ま、い、の、ま、い、に、
あ、ら、ま、る、ハ、一、つ、ら、り、な、り、ま、ま、い、く、此、後、乃、ら、う、波、あ、ら、う、ら、お、れ、む、

とて、
む。又方便の。法華法実として、師の尔前の徳をバ皆方
便とするハ、法華宗たるに、なること、然るも、その方りて、
物なる方便といふこと、誠、小宗と見らるハ、いふべきが、
といふハ、何れの経も、
て、
ありて、
こ、
辞、

を、或も五時の教を、
皆空、或も法一如を、
らぬ、
成佛、
と、
と、
乃、
兼、

許可はうきて、宗旨をきいた先にも、おとくく、天台は法次
 をせし書正と、つらむいと、心持を、或教をみたり、おほき、百がむ
 と、し、中くに、まこと、おそむ、たるもの、し、う、お、人の、ん、ま、女の、ま、向
 ぶ、て、ま、し、ち、う、し、づ、ち、し、る、あ、と、ま、び、い、し、く、ふ、ら、ま、ら、ざ、し、る
 し、た、ま、に、その、ま、を、し、み、づ、く、し、う、お、日記、お、も、ま、を、く、い、つ、る、もの
 を、い、く、で、う、ち、ら、ま、う、う、お、る、こ、ま、び、お、せ、せ、し、あ、ま、お、ろ、い、は、源、氏、え、乃、
 玉、着、え、へ、く、り、終、お、もの、が、く、り、お、お、さ、る、お、う、ま、娘、お、む、し、て、
 いく、で、う、佛、法、乃、お、む、ぐ、し、に、奥、方、お、む、を、ま、び、り、出、渡、し、終、を、む、此
 物、渡、り、ま、む、く、ま、や、う、お、つ、う、り、し、く、ら、ざ、る、あ、と、ま、を、ま、び、か、く、ぶ、
 ぬ、ま、や、し、

○上の件、當を、ま、引、お、る、文、の中、お、う、れ、も、つ、き、も、い、つ、ふ、お、る、人
 の、ま、く、よ、ま、ま、あ、り、い、お、る、し、は、よ、た、こ、の、う、ま、り、げ、え、し、い、で、人、う、あ
 と、が、い、む、し、し、は、わ、ま、ま、ま、あ、の、ま、く、人、乃、よ、ま、ま、何、し、た、ま、な、ど、げ、か、も
 と、べ、く、物、渡、り、い、つ、る、よ、た、わ、ま、い、ま、い、よ、の、つ、の、の、儒、佛、ま、ど、の、書、に
 つ、お、善、惡、と、い、は、い、ど、か、う、づ、る、あ、と、ち、り、ま、佛、を、お、渡、お、い、つ、る、よ、ま、何、し
 き、渡、し、く、が、お、儒、仏、乃、善、惡、と、の、ま、ん、お、て、い、ま、ら、が、お、ゆ、い、お、ら、く、
 だ、し、ま、が、ま、む、く、よ、た、わ、ま、い、ま、い、ま、の、う、へ、お、ら、く、く、ま、と、終、る、こ、ま、を、
 人の、う、へ、つ、ま、し、も、お、む、し、と、ん、ま、ら、づ、の、ま、ら、づ、ど、お、あ、ら、う、お、お、よ、ま、
 あ、ま、ま、ま、て、ま、ま、渡、う、し、し、し、賤、ま、ま、ま、ら、し、し、し、し、昂、け、物、渡、り、も、
 位、乃、ま、ら、人、ま、よ、ま、ま、人、と、い、つ、り、俗、ま、お、も、お、ら、が、ら、お、よ、ま、格、の、よ、に

ともなきがどつおをまじ、又うかかちらわもよれわ〜まじら〜いつかり
 さらけり。又命長く^{トニサカ}蓄茶之物をゆるすねじハ皆よれたる命み
 いかじまづ〜〜衰へおさう〜〜あまど〜〜か^ヒ病災もど〜〜あけりま
 す〜せを又人のうへのまけらば、衣被相なぬ居まどをなげめ、あ乃
 うふおの〜〜皆よれ〜〜けり〜〜いましてか〜〜けり人の心まじの〜〜に
 をかぎらび。又おより事ふらり、時ふあ〜〜けしてよ〜〜何〜〜けりい
 こもま〜〜あを矢よれまおをよ〜〜さむをきよ〜〜と〜〜^{ヨロイカト}甲冑ハと
 ほさぬをよ〜〜まけあつき日中を、おや〜〜らぬまよ〜〜と〜〜その
 きてけりハ^{ツツ}熱きものをよ〜〜と〜〜^{スル}東をよ〜〜人ま^{ヤミ}善行〜〜と〜
 一〜〜ねをまのぶ〜〜まのま、月夜をま〜〜と〜〜ま〜〜むらひけりおもま〜

ともなきまじり人の心まじのよれまきもまじら〜〜う〜〜い
 ことろ〜〜まじりてかちぬ、そのまて、儒の道およ
 一〜〜まじり佛のまじり〜〜と〜〜ねのまか〜〜と〜〜まじり
 儒乃まじりハ、い〜〜と〜〜まじり〜〜むらひもまて、^ヒ一やうお〜〜まじり〜
 お清きおても、又よ〜〜と〜〜あ〜〜と〜〜まじり申ふよつ〜^ヒ乃儒
 佛の善悪とはかちぬ、あ〜〜と〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり人のお
 ら〜〜けよれあ〜〜れま、い〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり、おの何をまじり
 けり、よ〜〜まじり、よのの中、人の情〜〜かま〜〜まじり〜^ヒあ〜
 まじり〜〜あ〜〜まじり〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり〜
 ちせ〜〜まじり〜〜い〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり〜〜あ〜〜まじり〜

〇あはさ〜〜

〇七

つべきにあはぬ物候も儒佛あがれどこの道のる道乃やくにまよ
ぬまはれどてはちふ入念きのこころはつらぬ又まよもあそも
ぶをまよまよむべきまよへるとつらぬまよの中のものごころ
あまふゆきふまよまよらぬ善悪の端まよびくまよあまきまよ
とかりくまよまよのわらねをまよまよかまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
てまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

ふまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

とてさういふことにはございませぬ。此ぬるを其文どをえんまば神もけえ
をたもせとぬつこ中一儒佛のまをせしむるはさういふに
不義乃ゆらまひある人を神も仏もたもかくわれとぬへるま
又いふべし書べき又女もよれ人乃もまじふといふは藤壺中宮
業と船島毎院をぬるを申ふは申ふは藤壺中宮のまをせしむる
こまはそれなりとまをせしむる中ふも藤壺をへるどのまをせしむる
あそれおちまてかつけおちまて人のうせいとつるまをせしむ
おのづからまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
まをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
まをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる

おまがしあまのまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
のまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
へるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
よれ人のまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
よれ人のまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
又おふり出る柏木君はまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
まをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
人まをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
おまがしあまのまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる
まをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむるまをせしむる

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short note, enclosed within a rectangular border on the right page of the manuscript.

